



カルチャーたかつ TAKATSU

発行 高津区地域教育会議
編集 高津区地域教育会議
広報・情報委員会
事務局 〒213-0001 高津区溝口1-4-1
ノクティ2 高津市民館内
電話 044-814-7603 FAX044-833-8175



『いびきの権利の日のつどい』に合わせ、 高津区子ども合同会議を開催！

令和元年12月22日、『令和元年度かわさき子どもの権利の日のつどい』が高津市民館で開催されました。
このイベント開催に合わせ、中学生会議と子ども会議では、合同で高津区子ども合同会議を開催しました。

高津区子ども会議では、毎年1回メイン

の会議を実施していますが、今年度は『権利の日のつどい』に合わせ、川崎市の7行政区の子ども会議にも参加を呼びかけました。高津区外からの子どもの参加もあり、27名の小中学生が集まりました。
話し合いのテーマは「自分が幸せな時はどんな時？」

幸せな時とは、「好きなことをしている時」、「友達と遊んでいる時」などの意見が出ました。

また、どうしたらそれが実現できるか、の話し合いでは、「人を思いやる街がよい」、「相談、声かけできること」などの意見が出ました。あるグループでは、環境問題にも触れ、ポイ捨てがない、きれいな街にするには、「地面をゴミ箱にしてしまう」など、大人では考え付かないような驚くべき意見も出ました。

活動内容を 高津区長宛に報告

2月26日(水)、子ども会議の大人委員と高津市民館職員とで、高津区役所におもむき、高梨高津区長に活動報告を行いました。

例年は子どもたちと一緒に高津区長報告会を開催していましたが、新型コロナウイルス感染症への対応として、残念ながら中止となりました。その代わりとして、大人委員のみでの活動報告となりました。



子ども合同会議の前に、川崎市子ども会議と幸区・中原区・高津区・宮前区子ども会議が、自分たちの活動をコマmercial。

「高津区子ども会議」は、高津区地域教育会議の子ども会議委員会が、子どもの気づきと学び合いの場としてサポートしています。
主役は子どもたち。高津区内の小・中学校から実行委員を募集し、年度を通じて活動しています。今年度からは、中学生会議と一緒に活動を進めています。

高津区子ども合同会議の様子や高津区子ども会議のコマーシャル、久清ファームでの野菜収穫体験の様子を動画や写真で紹介しました。平成28年度から始めた、子ども達のイラストで作る缶バッジの令和元年度の代表作も紹介しました。
高梨区長からは、「高津区の北部は工場見学できる場所もありますし、高津の色々な場所に出かけて街を知ることによって愛着が湧き、街が好きになります」とのお話をいただきました。



議長 角田 仁
 高津区地域教育会議の令和元年度第2回全体会を開催しました。
 令和2年2月13日(木)、高津区地域教育会議の令和元年度第2回全体会を開催しました。
 高津区地域教育会議は、各委員会がそれぞれ主体的に活動を行っていますが、所属する委員会以外の委員活動も相互に知るため、また、委員全体の話し合いの場として、今年度の第1回目の全体会(9月に開催)では、教育委員会の担当を



議長 角田 仁

高津区地域教育会議の令和元年度第2回全体会

令和2年2月13日(木)、高津区地域教育会議の令和元年度第2回全体会を開催しました。

高津区地域教育会議は、各委員会がそれぞれ主体的に活動を行っていますが、所属する委員会以外の委員活動も相互に知るため、また、委員全体の話し合いの場として、今年度の第1回目の全体会(9月に開催)では、教育委員会の担当を

招き、『川崎らしい地域教育ネットワークのあり方(地域学校協働本部構想)』について説明会を行いました。法改正により、二〇一九年度から公立学校のコミュニティ・スクール化が努力義務化され、またコミュニティ・スクールに指定された学校に設置される学校運営協議会を、中学校区単位で設置することも可能となりました。高津区では、今年度から東橋中学校区でその試行が始まっています(東橋中学校と子母口小・久末小の2小・1中でひとつの学校運営協議会を作ることができるようになりました)。

文科省が進めるコミュニティ・スクール化に絡み、学校運営協議会と連携して多様で継続的な地域学校協働活動を推進するための組織(地域学校協働本部)として、川崎市で20年以上の活動実績がある地域教育ネットワーク(地域学校協働本部構想)として活かそうではないか、という検討が進められています。

全体会のテーマ設定
 現在、地域教育会議を巡るトピックスとしては以上のようなことがあげられますが、今年度第2回の全体会のテーマ設定に当たっては、昨年度の全体会などでやってきた地域教育会議の原点や役割を捉え直す試みをさらに推し進められたら、と考えました。昨年度までに、委員の選出団体をお互いによく知ろうというところで団体紹介をしたり、また、委員活動をよく知ってもらおうということ、過去の活動の映像なども見てもらったりしています。

で亡くなりました。
 引用した詩は、一九八五年にリリースされた尾崎豊の「卒業」です。私が物騒と感じた「夜の校舎 窓ガラス壊してまわった」には、当時校内暴力などの青少年の問題行動が盛んだったことが読み取れます。

一九八〇年代は、校内暴力などの青少年の非行や、受験戦争の過激化が大きな社会問題となった時代でした。先ほど紹介した尾崎豊の歌は、こうした時代を鏡のように映しています。先ほどの問題(受験戦争の過激化を背景として、川崎市では金属バット事件が起きていた)を解決するために、社会教育が重視されるようになった。川崎市では地域教育会議が誕生します。こうした社会教育の団体は、日本でも類を見ない画期的な団体であり、誕生以来、学校・家庭・地域の三者間の連携の重要性が説かれました。その連携を指す活動として、子ども会議や教育を語るつどいなどの事業を行ってきたのです。

私が、高津区地域教育会議に住民委員として仲間入りを果たし、地域教育会議について説明を受けた内容のうち、尾崎豊をリアルタイムで見ることがない私からすれば、校内暴力や受験戦争などと言われ

また、「地域の連携」ということをよく言いますが、それはいかんにも可能になるのかを、事例紹介なども交えて、話し合いを行ってきました。

これまでの経緯を踏まえ、私の思考経路の中に、昨年10月の役員会・運営委員会の席で、一番年齢の若い住民委員である前川委員(今年度からは役員の一員として会計を担っていらっしゃいます)が披露してくれた問題意識がよみがえりました。

『地域教育会議の未来』という表題の彼のスライドからは、「地域教育会議が解決を目指した一九八〇年代の課題は解決できたのか?」また、「40年の時間が経過した現在、地域教育会議はどのような状態にあるのか?」そのようなことを考えさせられるものでした。

コミュニティ・スクール化に絡む現状の検討事項とも合わせ、今回の全体会のテーマとしてこれほど相応しいものはないと感じました。

前川委員による「地域教育会議の未来」と題したスライドと、私が作成した資料「地域教育会議のこれから」(地域教育会議の誕生経緯や目的、私たちの暮らすまちやコミュニティに関するアンケートやデータで見る現状と課題)をご覧になっていただきながら、当日参加された30名ほどの委員の方々と、前川委員の進行で話し合いを行いました。

子ども会、町内会・自治会、PTA、子ども文化センター、教職員・元教職員など、地域教育会議らしい様々な立場からのご意見やご発言があり、活発な話し合いになりました。

40年前、荒れる学校・受験戦争 学校・家庭・地域の連携で解決を目指す。

1980年代の課題

地域教育会議の誕生
 1980年代、校内暴力で荒れる学校や少年事件が多発し、川崎市でも金属バット事件が起き、教育の危機が指摘された。市内の全小中学校を会場に教育集会を開催し、242カ所、延べ4万人の参加者から出された6,500件の意見を元に、地域からの教育改革を目指して「地域教育会議」が提案された。1989年、51中学校区と7行政区すべてに地域教育会議が設置。

地域教育会議の目指すもの
 地域と学校、行政が協力して子どもがいきいき育つまちを作ろうというもの。そして、おとなも楽しく学べるまち、ひいてはあらゆる人々が共に生きる地域社会を目指す。

地域教育会議の枠組みで予想していなかった時代変化
 家庭では、80年代の教育問題を知らない世代が保護者になる(地域コミュニティに入ったことの無い世代が親になる)。
 ・地域は団体の活動力が徐々に落ちてきている。(老人クラブ連合会や子ども会、会員数の減少や役員の手不足)
 ・学校は教員が多忙化。働き方改革が進められているが...

地域に学校を開く コミュニティ・スクール化の動き

現在
 地域学校協働本部構想
 公立学校のコミュニティ・スクール化が努力義務化されたことに伴い、これまでの地域教育会議の理念を継承しつつ、学校運営協議会と連携して多様で継続的な地域学校協働活動を進めるための組織(母体)として機能すること。

・地域教育会議は、コミュニティ・スクール以上に学校地域連携を行ってきた所もある。
 ・ただし、現状は中学校区ごとにより異なる活動状況になっている(と思われる)。
 ・地域住民が核となっている所もあれば、事業は学校・教職員におんぶに抱っこという所も。
 ・地域が核となっている所でも、熱意を維持していくことが困難(継続性、後継者など)。

・地域教育会議は、コミュニティ・スクール以上に学校地域連携を行ってきた所もある。ただし、現状は中学校区ごとにより異なる活動状況になっている(と思われる)。

でも全く実感が湧きませんでした。さらに委員になった二〇一〇年代後半は、学校では教員の多忙化が指摘され、家庭は共働き世帯が増え、地域も各団体が会員数の減少という地域教育会議が誕生した時期とは異なる新たな局面を迎えていました。

実は、私は地域教育会議主催の子ども会議に子ども委員として参加してから、ずっと地域教育会議との縁が続いています。いわば、私の成長には地域教育会議が大きく関わっていました。しかし、地域教育会議が掲げる学校・家庭・地域の連携は新しい局面を前に、その連携は形骸化しているように感じました。何か新しいことをしなければ、一九八〇年代を知らない私のような世代が多くなった時に、私の大切な場所は無くなってしまうのではないかと、という危機感に駆られました。そこで、「何のために学校・家庭・地域の連携があるのか?」という問題関心を有しました。新しく地域教育会議の意義づけをすることで、危機感を打破できる事業が生み出せるのではないかと、という目論見のもと、今回の全体会では「実は学校教育の中に町内会の機能などを学ぶ機会がない」、会「若いPTAの役員は、なぜ区の地域教育会議があるのか分かっていない」や「区の地域教育会議だからこそのことができる」など、意見が活発に交わされ、非常に刺激的な話し合いとなりました。今回の問題・関心は、多くの委員の方に共有できたように感じました。

アンケート、データで見る現状と課題 ①

身近な交流や活動の場の不足

- ・地域の課題「住民同士の関係の希薄化」がトップ(H29(2017)年度市民アンケート)
- ・社会活動・地域活動に「関心がある」は29%(4年前比9%減)。社会活動・地域活動に「参加している」15%(4年前比7%減)(同上)
- ・社会活動・地域活動に参加しない理由「きっかけがないから」が約5割(H25(2013)年度市民自治の実態等に関する調査)
- ・市民活動・地域活動に対して行政が支援すべきだと思う項目「活動場所の提供」がトップ(H29(2017)年度市民アンケート)

互助の必要性の高まり

- ・2040年の高齢化率29%(H29(2017)年川崎市将来人口推計)
- ・高齢者の5人に1人がひとり暮らし57,959人(5年前比23%増)(H27(2015)年川崎市国勢調査)
- ・高齢者の約7人に1人が認知症(H30(2018)年かわさきいきいき長寿プラン)

子ども会議の意義って？

- ◇では、子ども会議の意義とは何か？
- ◇私：高津区・川崎市とやってみて・・・
- ◇「高津区も川崎市も好きになった！」：地域への眼差し
- ◇自分の考えていることを実現しようと動く大人がいる
- ◇子どもの可能性を感じる大人が多いのでは？！！
- ◇そんな大人に自分もなりたい！

前川委員長ありがとうございました。最後に、前川委員のスライドの「子ども会議の意義」を伝える頁をご紹介します。自身、子ども会議の子ども実行委員長もつとめた彼の言葉は、感激的でもあります。

ですが、険しい道のりはここから始まりません。こうした意見交換を基に、「何のための連携なのか？」という問いに答えを持たなければならぬ。こその地域教育会議の発展に繋がる。と信じて、険しい道を委員の皆様と一緒に楽しみながら歩んでいきたいです。

アンケート、データで見る現状と課題 ②

町内会・自治会等の住民自治組織を取り巻く環境変化

- ・町内会・自治会加入率は61.1%で、微減傾向にある(H30(2018)年度市民文化局調べ)
- ・町内会・自治会の活動に「よく参加している」3%、「たまに参加している」14%(H28(2016)年度市民アンケート)で、参加者は減少傾向にある
- ・行政の町内会・自治会への依存度について「頼りすぎ」12%、「やや頼りすぎ」50%(H29(2017)年度町内会・自治会アンケート)
- ・町内会・自治会運営での問題は「役員の高齢化」がトップで70%(同上)
- ・市内持家住宅のうち集合住宅(52%)が戸建(48%)を上回る。借家を含めると約7割が集合住宅(H25(2013)年住宅・土地統計調査)



3つのハートは学校・家庭・地域の連携を表しています。

TAKATSU

【編集後記】

広報誌『カルチャーたかつ』の第69号をお届けします。初のオールカラーでの発行です。

例年、3月に中学生会議委員会の「J.H.S. コミュニケーション in 高津」(中学生会議委員会がテーマを決め、各中学校から参加者を募って行うイベント)を行ったり、子ども会議で話し合ったこと・活動内容を高津区長に報告したりと、掲載する記事に事欠かないのですが、残念ながら今年は新型コロナウイルスの感染防止などのため、イベントを中止せざるを得ない状況となってしまいました。

今号では、昨年12月に実施した高津区子ども合同会議の様子と、本年に入り2月に開催した高津区地域教育会議の全体会の模様を紹介することにしました。せっかくのカラーの誌面ですが、文字の多い号になってしまいました。

さて、2月の全体会も2月13日なので何とか開催できましたが、もう少し遅かったら大勢の人数が会議室に集まっているのか、ということになっていたかもしれません。

今回、全体会でのテーマを提案してくれた前川委員は、私が高津区地域教育会議で活動を始めた頃(2006年頃)に、子ども会議の子ども実行委員長だったり、橘中学校の生徒会役員として中学生会議に出てきてくれたりしていました。

前期(第13期)より住民委員として参加いただいています。十数年の付き合いになりますが、今ではアフター会議やイベントの打ち上げなどで、一緒にお酒も飲める仲になりました。不思議な気持ちになります。

さて、4月からの新年度、新型ウィルス騒ぎ、早く収束して欲しいものです。

新年度は、高津区地域教育会議の第14期の2年目。2021年は第15期を迎えます。1年間、いろいろな検討を進め、第15期からは新たな地域教育会議の意義を見出すことができればいいですね。

高津区地域教育会議
議長・広報情報委員長 角田 仁



子ども会議と中学生会議のテーマを表示して作成した缶バッジです。2019年度は子ども会議と中学生会議とが一緒になって活動を進めてきました。